


学習指導改善調査 実践モニター 実施計画書

私のプロフィール		
氏名	もたい かずひろ 巖 和弘	
勤務先	上越市立春日小学校	
○ 担当学年・実践教科 6 学年・算数		

★取組の方向

私	算数のおもしろさを感じる要素は「正確により効率的に計算できる喜び」「答えにたどり着くのいろいろな考え方ができる楽しさ」「既習の考えを生かして新しい知識を獲得できること」などがあると考えている。そのために、既習事項を活用し考える姿、友達のことを聞いて自分の考えを深める姿、正確に計算できる技能を大切に、算数のおもしろさを感じる授業を目指している。
学級の実態	<p>■学習指導改善調査「算数」の分析より</p> <p>通過率が高かった項目としては、小数のわり算の「立式」「筆算」「答えに表す」であった。逆に通過率が低かった項目は、「小数の除法における余りの大きさの捉えとその説明」である。問題場面から除法を適用する問題であると判断する力や小数のわり算の筆算のアルゴリズムが身につけている児童が多い。このことから、計算方法は身に付いているが計算の仕組みが分かっていないという実態が見えてくる。これは円の面積の問題についても同様である。</p> <p>理由を説明するなかで「長方形」「円周」など算数の用語が正しく使えないという児童も多い。説明するための道具として算数の用語の理解を進めるとともに、算数の用語を正しく使えるように指導していく必要がある。</p>
今後の指導の方	<p>■学習指導改善の視点として以下のことを実践していきたい</p> <p>①既習事項を活用しやすくする ノートに日付、通し番号、学習のテーマ（題字）を必ずつけ、既習事項の確認をしやすくし、説明の根拠としたときに全員でふり返しを行う。</p> <p>②児童自らが考える過程を重視する 計算の仕組みや考え方の根拠を説明することを重視する。「略図」「線分図」「表」「式」「言葉」など説明するための方法を身に付けることを目指す。今回の出題にあったように、式のみを提示して式の意味することを読み取らせたり、誤答を生かして友達の解き方の続きを考えたりするなど、一人の解決で終わるのではなく人とかかわりながら解決するという授業を進めていく。</p>